

2023 年度大学入学共通テスト 解説 〈倫理〉

第 1 問 源流思想

問 1 正解は③。

- ③ 仏教では、在家信者に対しては**五戒**を守るよう求めるのに対し、出家信者に対してはさらに厳しい**具足戒**を守ることを求める。
- ① イスラームは従来の部族社会における多神教信仰の打破を目指すものである。
- ② ヒンドゥー教は、バラモン教が前提とする身分制度を継承している。
- ④ 救世主(メシア)への待望は確かにユダヤ教の特徴であるが、**十戒**に定められている内容ではない。

問 2 正解は④。

- ④ 老子の**小国寡民**の教え。
- ① 律法の厳守こそが**パリサイ派**の最大の特徴である。この態度が神の御心に反するとして、イエスによって後に批判された。
- ② アリストテレスにおいて最高の幸福をもたらす生き方は、政治的生活ではなく**観想的**生活である。
- ③ **ジャイナ教**は不殺生(アヒンサー)の徹底を説く。この立場によれば、農業は必然的に虫などの命を奪うことになってしまうので、従事してはならないとされる。

問 3 正解は①。

- ① 資料の 1～3 行目の記述が **a** に対応する。**b** はムスリムの宗教的義務である**五行**の一つ「**喜捨**」のこと。
- ② **a** は適当だが **b** は「エルサレム」ではなく「メッカ」。
- ③ **a** は「憶測をできるだけ避けよ」との資料の記述と相容れない。**b** は適当。
- ④ **a** は適当だが **b** はイスラームでは偶像崇拜が禁止されているので不適当。

問 4 正解は②。

- ア 正文。イエスの**隣人愛**は自身にとっての敵や迫害者にも及ばなければならないので、正しい。
- イ 正文。墨家の**兼愛交利**についての正しい説明。

ウ 誤文。「アートマン」とは自我の本体すなわち魂を意味しており、バラモン教と違い、ブッダはそうしたアートマン(我)がどこにもないと論じた。

問5 正解は⑧。

ア ブッダは、四諦における「苦諦」においても、四法印における「一切皆苦」においても、あらゆる生が根本的に苦であると説いたので、正しくない。

イ パウロは、イエスの死を人間の原罪に対する贖い(贖罪)であると説明したので、正しい。

ウ・エ いずれも読解として正しい。

問6 正解は②。

② 荀子は性悪説の立場をとり、善は本性としての悪を礼義によって矯正したものだと論じている。

① 後半の読解は正しいが、荀子の説明がおかしい。人はもともと悪の本性を持つが、資料の最後にあるように、誰もが聖人になれるとされる。

③ 孟子への評価が正しくない。孟子は学問によって善を獲得すると説いたのではなく、善なる本性があるがゆえに学問に向かうとされている。

④ 荀子は、作為的な「偽」としての善を身につけられると考えた。

問7 正解は②。

a プラトンによれば、ソフィストたちは「欲張る」ことが人間の本来のあり方だと考えている。

b キケロによれば、他者を犠牲にした自己利益の追求が「自然に反する」とされている。

c ストア派は宇宙を貫くロゴス(理法)を重視し、それに従うことを説いたことから、普遍的な法としての自然法思想の源流の一つとされている。

問8 正解は④。

④ aは適当。会話文で、正義は人間相互の関係の中で必然的に求められ、共存のために必要だと述べられている。bは適当。プラトンは感覚による知は現象を捉えるのみであり、知性によって事物の真の姿としてのアイデアを捉えるべきだと論じた。

① aは不適当。会話文では、どの時代どの社会でも何らかの正義が求められてきたとあるが、時代や場所を超えた「絶対的な正義」が存在し、それを「誰もが合意し遵守してきた」とは述べられていない。bは適当。孟子は王といえども天命に背くならば易姓革命が行われるべきだとして、王の権威を相対化した。

- ② a は適当 (42 ページの会話文中の A の 5 番目の発言に対応) だが, b が不適当。記述内容は正しいが, 「本当の正義や真理の探求」が必要だという文脈に適合しない。
- ③ a は不適当。会話文では, 「異なる正義観」「正義の考え方の違い」が生じていることが指摘されている。b は不適当 (②の b と同様の理由)。

第2問 日本思想

問1 正解は③。

- ア 誤文。成仏できる人とできない人を区別したのは法相宗の徳一であり, それを批判したのが最澄。
- イ 正文。空也は平安時代に活躍した浄土教の先駆者で, 公共事業を行い, 遺棄された死者を火葬に付すなどしたことから, 市聖と呼ばれた。

問2 正解は④。

- ④ 狼藉を働いて追放処分となったスサノヲが, 追放先である黄泉国に行く前に姉であるアマテラスに挨拶に行ったところ, アマテラスはスサノヲが軍勢を率いて攻め込んできたと勘違いしたため, スサノヲは, 誤解を解き自分の清き明き心を証明するための誓約(うけい)を行った。
- ① イザナギとイザナミは, 彼らに先立つ神々の命令を受けて, 国生みを行った。
- ② 天つ神とは高天原に住む神々の総称であり, ①のイザナミとイザナギが他の神々の命令を受けて国生みを行ったことや, ニニギがアマテラスの命令を受けて地上に降り立つなど, 「全てを自分自身の判断で決定した」わけではない。
- ③ 確かに和辻哲郎はアマテラスを「祀るとともに祀られる神」と呼んだが, それは上位の神に奉仕する側面と, 下位の存在から「祀られる」側面の二面性があるという意味であり, 「尊貴さを否定した」わけではない。

問3 正解は④。

- a ①④および②⑤の記述が当てはまる。③⑥にある「心に思い描いて念仏する」ことは観想念仏といわれ, 平安時代の源信が重視した修行であったが, 鎌倉時代の一遍は, 徹底した他力信仰の立場から, 「南無阿弥陀仏と一声となえれば極楽往生できる」と考え, 信心さえなくても名号札を持っているだけでよいという立場。
- b ④⑤⑥が当てはまる。法然は浄土信仰を純化し, 他の修行をいっさい捨て, ひたすら南無阿弥陀仏と唱える称名念仏だけに専念すべきだと説いた(専修念仏)。一遍のよう

に信心すら不要という立場ではない。

- c ①④が当てはまる。「信じる気持ちがあろうかなかろうが、淨い状態であろうがなかろうが」、すべての人間の往生は決定している。

問4 正解は②。

- ② 古義学の祖である伊藤仁斎は、抽象的な天理を説く朱子学に反対し、「日常卑近な人倫」こそが重要であるとして、真実無偽の心としての「誠」をもって人と接することが仁であると説いた。
- ① 人を安易に信じるなどという考え方は、資料にある「我よく人を愛すれば、人またよく我を愛す」との記述と相容れない。
- ③ 私利私欲を厳しくつつしまねばならないという姿勢は、朱子学の存心持敬の立場である。
- ④ 「上下関係の秩序を重んじ」るのは、上下定分の理を説いた朱子学者・林羅山の立場である。

問5 正解は①。

- ① 吉田松陰の名言に、「至誠にして動かざるものは、未だこれあらざるなり」がある(よってaは適当)。資料に、「人と生まれて人の道を知らず……は、恥の最たるもの」とある(よってbは適当)。
- ② aは適当だがbは不適當。吉田松陰は藩ごとに異なる主君を奉じる体制を改め、天皇ひとりを万民が奉じる一君万民論を構想した(よってaは正しい)。また資料には「陽の目を見ることも望めない」境遇であっても「道を学ぶべき」とある(よってbは不適當)。
- ③ bは正しいがaが不適當。aは古学の祖・山鹿素行の説明。
- ④ abいずれも不適當。aは『葉隠』の著者・山本常朝の説明。bは②と同じ理由で不適當。

問6 正解は②。

ア 森有礼についての記述。森は明六社の発起人にして初代文部大臣。男女の平等や英語の国語化など急進的な主張を行った。

イ 西村茂樹についての記述。西村は『日本道德論』を著し、伝統的な儒学に西洋哲学を加味した国民道德の確立を説いた。

問7 15 正解は③。

- ③ 絶対矛盾的自己同一は、西田の世界観を表す用語。たとえば生命における生と死は、一見するとまったく別の事柄であるようだが、じつは生命という現象においてこれらは不可分の同一の事柄でもある。このように、対立物が矛盾を含みつつ同一性を保つことを、西田は絶対矛盾的自己同一と呼んだ。
- ① 西田は主客未分の純粹経験から議論を出発している。
- ② 西田の言う「場所」は主観的なものを排するものではなく、主観と客観が立ち現れる場である。
- ④ ヘーゲルの弁証法とは違い、西田の言う「絶対矛盾的自己同一」は、矛盾を解消するものではなく、矛盾が矛盾のままで同一性を保つものである。

問8 16 正解は①。

- ① 7月11日の日記に他者への問いが自分自身への問いでもあるとあり(よってaは適当)、資料には、問いが答えを生み答えが問いを生むとある(よってbは適当)。
- ② bは適当だがaが不適当(他者への問いが自分自身への問いでもある)。
- ③ aは適当だがbは不適当(読者の問いがあって初めて著者が問いを投げかけてくるとある)。
- ④ abいずれも不適当。7月17日の日記では西田の問いが自分自身の自問自答と共通点があるとされており(よってaは不適当)、資料には、「自分が勝手な問を発するのはな」とある(よってbは不適当)。

第3問 西洋近現代思想

問1 17 正解は④。

- ア 正文。マキャヴェリは、政治と道徳を峻別し、為政者は非道徳的な手段をもとらねばならない局面があることを強調した。
- イ 誤文。ミケランジェロの説明である。ラファエロは、ルネサンス期を代表する画家の一人で、倫理の教科書にもよく掲載されている「アテネの学堂」などを描いた。
- ウ 誤文。『デカメロン』を著したのはボッカチオ。

問2 18 正解は②。

- ② アダム・スミスは、各人の私益追求が、競争の結果、「見えざる手」を通して公益を実現すると論じた(したがって①は誤り)。
- ③④ 「労働の疎外」についてのマルクスの考え方。

問3 19 正解は⑤。

- ア ベンサムについての記述。ベンサムは、社会全体の快樂の総量を最大化する「最大多数の最大幸福」を実現するために、その妨げになりうるものを望ましい方向に誘導するために、**四つの制裁**を提唱した。
- イ ロックについての記述。ロックは、自然権が不安定であるという自然状態の問題を解消するためには、政府に権限を信託する必要があるとしつつ、政府による権力濫用があった場合には、人民が抵抗し、望ましい政府を設立する**革命権**があると論じた。
- ウ トマス・アキナスについての記述。トマス・アキナスは中世の神学者で、信仰の優位も認めつつ、信仰と理性の調和を説いた。グロティウスは「近代**自然法の父**」と呼ばれる。普遍妥当性を持つ自然法は、伝統的に神の制定したものとして宗教的に基礎づけられてきたが、グロティウスは、かりに神の概念を認めないとしても、人は理性によって自然法を発見できるとして、理性の上に自然法を基礎づけた。

問4 20 正解は③。

- ③ カントによれば、自由とは単に制約を受けないことではなく、むしろ欲望に流されることなく、「汝なすべし」という理性の声に従い、みずからの理性によって立法された**道徳法則**に自律的に従うことである。また、道徳的行為の主体としての人格には比類ない価値があり、各人がそれを常に目的として扱う世界を、カントは**目的の王国**と呼んだ。
- ① aは不適當。「自由」は、「神」や「靈魂」と同じく、経験を超えた**叡智界**の概念であって、経験によっては捉えることができない。bも不適當。各人が欲求充足を追求するのではなく、理性の命令に自律的に従うべきだとカントは説いた。
- ② aは適當だが、bは不適當。「主観的な行動原則」＝**格率**が、同時に普遍的な立法の原則として妥当しうように行為することが求められている。
- ④ aは不適當。肉体はその本性により自然法則に従っており、必然性に縛られているという意味で、自由を持たない。bは不適當。「公共の利益を目的として目指す普遍的な意志」とはルソーの説いた**一般意志**の概念であり、カントはこの考え方を受容しており、また「徳と幸福とが調和」した状態を目指すという記述も正しいが、「目的の王国」の説明にはなっていない。目的の王国はあくまで相互の人格を目的として扱うというものである。

問5 21 正解は④。

- ④ パスカルは、合理的推論を特徴とする**幾何学的精神**ではなく、全体を直観する**繊細の精神**を重視した。また資料読解も正しい。

- ① パスカルは人間の生を三つの秩序(「身体の秩序」「精神の秩序」「愛の秩序」)に分け、愛の秩序が最上位だとした。しかし資料の読解部分で、人間が「惨めにならずに済む」としている点が誤り。
- ② パスカルが「気晴らし」の問題を指摘したことは正しいが、信仰は気晴らしの具体例に当たらない。資料の読解は正しい。
- ③ パスカルが人間を中間者と位置づけたことは正しい。しかし資料の読解部分で、人間が「惨めさという不幸の中ではその偉大さを見いだすことはできない」としている点が誤り。

問6 22 正解は③。

- ③ レヴィナスは、他者を理解不可能な存在としたうえで、その顔のまなざしを通して応答を求めてくる存在であると論じた。
- ①② 他者は絶対的に他なるものであって、「顔を持たない無個性な存在」ではなく、「私と区別が付かないもの」でもなく、また「お互いを自己同一的な人格として承認し合う関係」でもない。
- ④ 「活動」の主体として公共空間で発言することの意義を説いたのはアーレントである。

問7 23 正解は①。

- ① 資料によれば、シェリングは、人間は善悪の分岐点に立っており、自由に決定を下しうる立場にある。
- ②④ 資料によれば、人間は善悪の可能性を「等しく自分の内に持つ」。
- ③ 資料によれば、人間は善悪の選択について「未決定のままではいけない」とされるので、「自ら選び決断する力はない」との記述はおかしいし、善悪の可能性を「認識し得る」とは述べられていない。

問8 24 正解は①。

- ① aでは自由に三つの観点があるということが確認され、bでは会話文ⅡでEが述べた弱さについての積極的な評価が示されている。
- ② aは正しいが、bが誤り。会話文ⅡのEが述べた内容(弱さの自覚があるからこそ他者の弱さを思うことができる)と相容れない。
- ③ bは正しいがaが誤り。会話文Ⅰで述べられていた規範や法による制約の意義が考慮されていない。
- ④ abとも誤り。他者の自己決定については述べられていない。

第4問 青年期・現代社会

問1 25 正解は③。

- a 子連れで再婚するなどして、血縁のない親子や兄弟姉妹を含む家族をステップファミリーという。ディンクスは Double Income No Kids の略で、子どものいない共稼ぎ夫婦のこと。
- b 生活環境の快適さをアメニティという。ユニバーサルデザインは誰もが利用しやすい建築物や製品などの設計を指す。

問2 26 正解は②。

- ア シュプラランガーについての説明。青年期は自我に目覚めて成熟した人格を形成する時期であると論じた。
- イ ホリングワースについての説明。青年期における精神的な自立を心理的離乳と呼んだ。

問3 27 正解は②。

- ② 当初のマシュマロ実験では本人の資質が将来の成功の要因だという結論が示唆されたが、被験者の親が高学歴の家庭に限定されていたため、家庭環境の要因を考慮すれば異なる結果が出るかもしれないと考えることができる。
- ① 新しい実験からは、「家庭環境を問わず将来成功する」との結論は出ない。
- ③ 新しい実験では本人の資質よりも家庭環境が重要であることが示唆されるし、当初の実験においても統計的な傾向が読み取れるのみなので、すべての成功者が我慢強いと結論するわけにはいかない。
- ④ 新しい実験の結果にも「批判的な指摘」があり、「家庭環境が大事だ」と結論することもできないとある。

問4 28 正解は③。

- ア 誤文。センのいう潜在能力は国家の機能に着目するものではなく、個人が生活において選択の幅を広げるため与えられた財を活用する能力のことである。
- イ 正文。途上国の貧困問題は植民地時代に旧宗主国によって単一の一次産品に依存するモノカルチャー経済の構造を押しつけられたことが大きな要因であるとされる。

問5 29 正解は①。

- ア 正文。宗教学者エリアーデは、宗教的な営みを行う存在であるという点に着目して、人間を「ホモ・レリギオースス」と呼んだ。
- イ 誤文。自国の文化が他国の文化より優れているとするのは**自文化中心主義**であり、文化間に優劣がないとする**文化相対主義**とは正反対の立場である。
- ウ 誤文。国際政治学者のハンチントンが提唱した「**文明の衝突**」についての記述。カルチャー・ショックは異なる文化に接したときに起こる衝撃のこと。

問6 30 正解は①。

- ① ロールズは、不平等が許容されるための条件として、**公正な機会均等原理と格差原理**を提唱した。また資料1-3行目では、道徳上の価値はその人の提供するものに対する需要と無関係だと述べられている。
- ② 西洋思想の二項対立的な図式の問い直しを説いたのは**デリダ**である。資料の読解は正しい。
- ③ ロールズは**功利主義**が少数者に不利益の甘受を強いてしまうとして、公正としての正義に反すると論じた。また資料では、才能ある人に私財を提供すべきだとまでは主張していない。
- ④ ロールズの説明は正しいが、資料の読解が誤り。

問7 31 正解は③。

- ③ **ab** いずれも**適当**。
- ① **a** は**適当**だが **b** が**不適当**。生活水準が「悪くなった」層では、努力は報われないと考える人がやや多いものの、その他の層ではすべて努力は報われると考える人が多い。
- ② **b** は**適当**だが **a** が**不適当**。2013年における女性については、努力が報われないと考える人の割合は、どの年代もほぼ同様である。
- ④ **a** は**適当**だが **b** が**不適当**。「悪くなった」と「やや悪くなった」の合算は411だが、「よくなった」と「ややよくなった」の合算は315である。

問 8 正解は②。

- ② ボードリヤールは、消費社会においては、モノの価値はその使用価値(有用性)よりも、記号としての意味合いが大きくなると論じた。
- ① ポスト構造主義に位置づけられるドゥルーズの思想。マッキンタイアはコミュニティアニズムに位置づけられる哲学者。
- ③ フーコーの思想についての説明。
- ④ レヴィ＝ストロースの思想についての説明。レヴィ＝ストロースが影響を受けた「…という言葉学」を提唱したのがソシュールである。

問 9 正解は④。

- ④ abcd いずれも適当である。
- ① ac は H の立場であり不適当。bd は G の立場であり不適当。
- ② bd は適当だが、a については、G は努力を評価すべきという H の主張に「一理ある」と言っており、また不運な人の努力についても評価すべきとの立場であるから不適当だし、c は G の立場だから不適当。
- ③ abc は適当だが、d は G の立場だから不適当。